

26PB-pm300

顔面・身体刺激による美容効果の検討

○張文平¹, 宮本悠帆¹, 田中里香¹, 竹内栄梨¹, 加藤友里¹, 藤川隆彦² (¹鈴鹿医療大学, ²鈴鹿医療大薬)

【目的】近年、美容鍼灸がブームになり、美容施術で肌質の変化およびリフトアップ効果が得られるかを調べる為臨床研究を行った。【実験対象&実験方法】本学の女性学生9名を被験者の対象にした。実験前に質問票の項目を記入してもらい、電子温熱きゅう、かつさ及び刺鍼を計45分間行った。実験前後に臥位の写真撮影と肌状態を反映する水分、油分、弾力、皮膚温、明度およびシミ度合を測定した。また、施術前後、三日後、一週間後、肌の状態について自己評価を行った。【結果】施術前の水分・油分・弾力に対し、施術後は順に其々+20%, +380%, -1%の変化率が見られた。皮膚温は施術前の35.1℃に対し、施術直後・施術1週間後は其々35.5℃、35.5℃と皮膚温の上昇結果となった。自己評価項目である肌の乾燥、化粧のノリ、肌のハリ・弾力は50%以上、毛穴の目立ち具合・頬のたるみ・肌の透明感などは40%以上の改善が見られた。また、肌の明度(L*)が施術前の66.9に比べ、施術後は66.3なり、一週間後には67.8まで上昇した。赤味の色合いを表す色度の値が施術前後で10.5から11.2へ増加し、黄味の色合いを表す色度は治療前の11.6から治療直後の11.3へ軽減した。【考察】本コースの施術は、電子温熱きゅう、かつさ、鍼の3つを併せることで、より大きな効果が期待できることがわかった。脾胃の機能を調和し、疏肝理気・鎮静安神作用のある経穴および眼輪筋や頬骨筋などへの局所施術への刺激により、施術直後、皮膚温、明度、色度(a*)が上昇し、水分・油分のバランスを整え、リフトアップなどの即効性が見られた。明度とリフトアップは施術直後より1週間後の方がより顕著に現れたことから、鍼の遅効性作用が認められ、本コースの治療間隔が提案できる。